

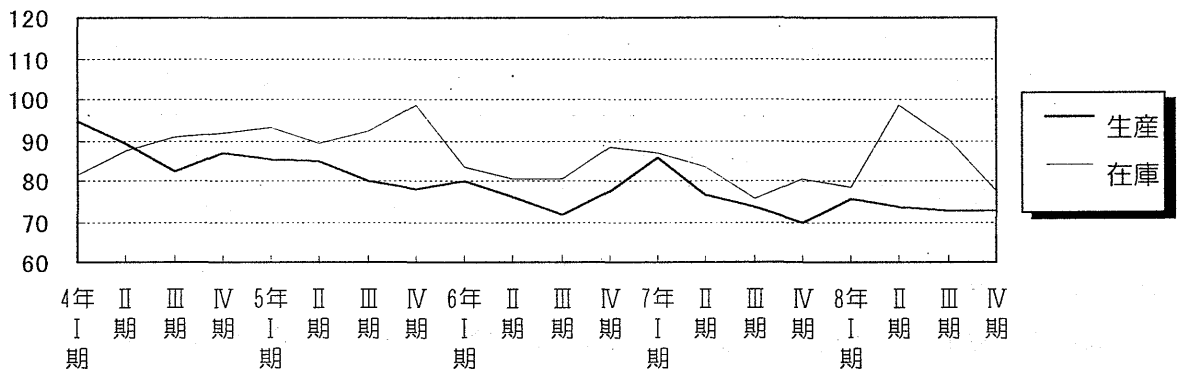
II 業種別鉱工業生産及び生産者製品在庫の動き (表3、表4)

1 鉄鋼業

8年の県内鉄鋼業の生産指数は73.6で、対前年比△3.8%減少した。これは銑鉄鑄物、鍛工品等が減少したためである。

四半期別にみると、1～3月期は75.5(対前期比7.9%増)、4～6月期は73.9(同2.1%減)、7～9月期は72.5(同1.9%減)、10～12月期は72.7(同0.3%増)となった。

一方、在庫指数の年平均は86.5で、対前年比6.2%増加した。これを四半期別にみると、1～3月期は78.6(対前期比2.7%減)、4～6月期は98.6(同25.5%増)、7～9月期は90.4(同8.4%減)、10～12月期は77.6(同14.1%減)と2期連続減少した。

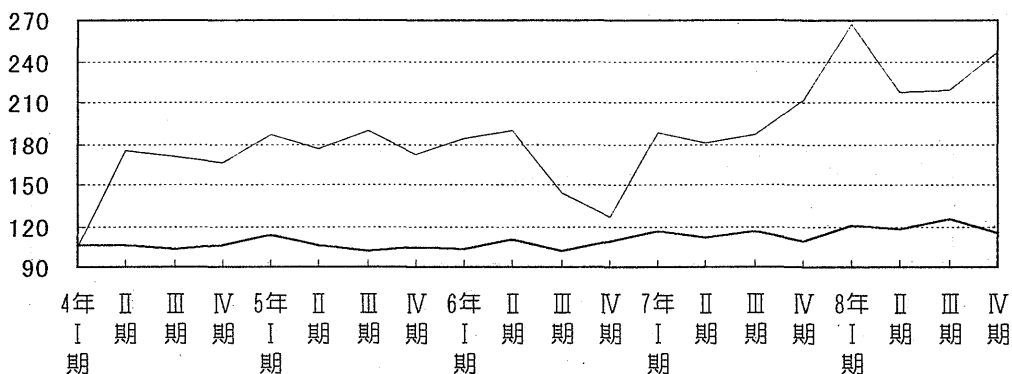


2 非鉄金属工業

8年の県内非鉄金属工業の生産指数は119.8で、対前年比6.1%増加した。これは光ファイバーケーブル、被覆銅線等が増加したためである。

四半期別にみると、1～3月期は121.4(対前期比12.2%増)、4～6月期は117.1(同3.6%減)、7～9月期は124.7(同6.5%増)、10～12月期は115.6(同7.3%減)と増減を繰り返した。

一方、在庫指数の年平均は237.5で、対前年比23.7%増加した。これを四半期別にみると、1～3月期は267.8(対前期比26.4%増)、4～6月期は216.7(同19.1%減)、7～9月期は218.2(同0.7%増)、10～12月期は245.9(同12.7%増)と2期連続増加した。



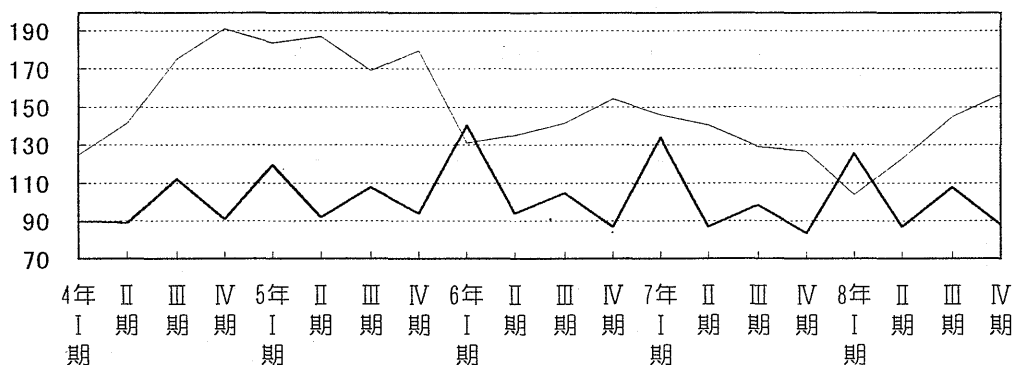
3 金属製品工業

8年の県内金属製品工業の生産指数は102.7で、対前年比1.1%増加した。

四半期別にみると、1～3月期は125.8（対前期比49.4%増）、4～6月期は86.8（同31.0%減）、7～9月期は107.7（同24.2%増）、10～12月期は88.2（同18.1%減）と増減を繰り返した。

一方、**在庫指数の年平均は130.8で、対前年比△3.9%減少した。**

これを四半期別にみると、1～3月期は103.3（対前期比18.5%減）、4～6月期は123.3（同19.3%増）、7～9月期は145.5（同18.0%増）、10～12月期は156.7（同7.8%増）と3期連続増加した。



4 機械工業

8年の県内機械工業の生産指数は92.3で、対前年比12.3%増加した。

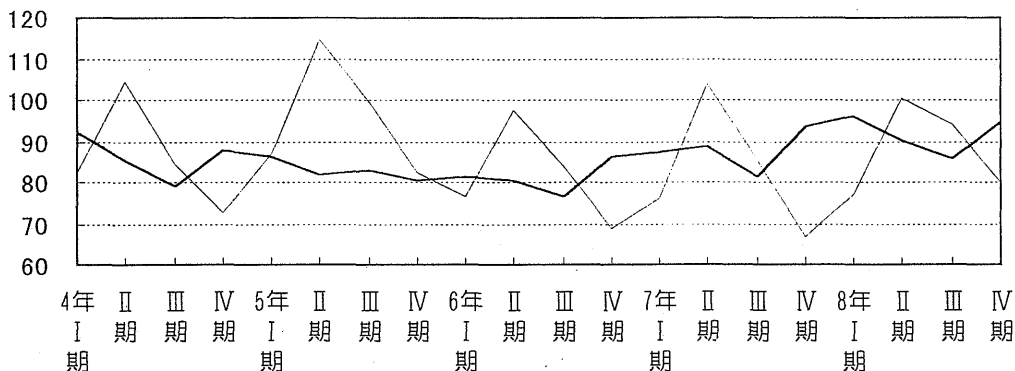
また、**在庫指数は70.9で、対前年比△15.3%減少した。**

4-1 一般機械工業

8年の県内一般機械工業の生産指数は91.4で、対前年比4.3%増加した。これは、飲料用自動販売機、数値制御専用機等が増加したためである。

四半期別にみると、1～3月期は96.0（対前期比2.4%増）、4～6月期は90.3（同6.0%減）、7～9月期は85.7（同5.0%減）、10～12月期は94.5（同10.3%増）となった。

一方、**在庫指数の年平均は86.6で、対前年比6.4%増加した。**これを四半期別にみると、1～3月期は77.3（対前期比15.9%増）、4～6月期100.3（同29.7%増）と2期連続増加し、7～9月期は94.0（同6.3%減）、10～12月期は79.8（同15.1%減）と2期連続減少した。

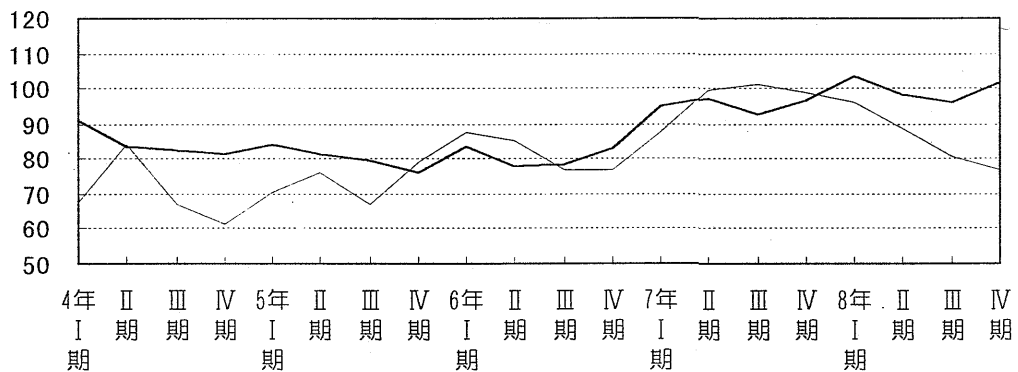


4-2 電気機械工業

8年の県内電気機械工業の生産指数は99.8で、対前年比4.5%増加した。これは、スイッチング電源、電動機駆動用変換装置等が増加したためである。

四半期別にみると、1～3月期は103.4（対前期比7.3%増）、4～6月期は98.3（同5.0%減）、7～9月期は96.0（同2.3%減）、10～12月期は102.0（同6.2%増）となった。

一方、在庫指数の年平均は85.8で、対前年比△11.0%減少した。これを四半期別にみると、1～3月期は95.9（対前期比3.1%減）、4～6月期は88.7（同7.5%減）、7～9月期は80.9（同8.8%減）、10～12月期は77.0（同4.8%減）と4期連続減少した。

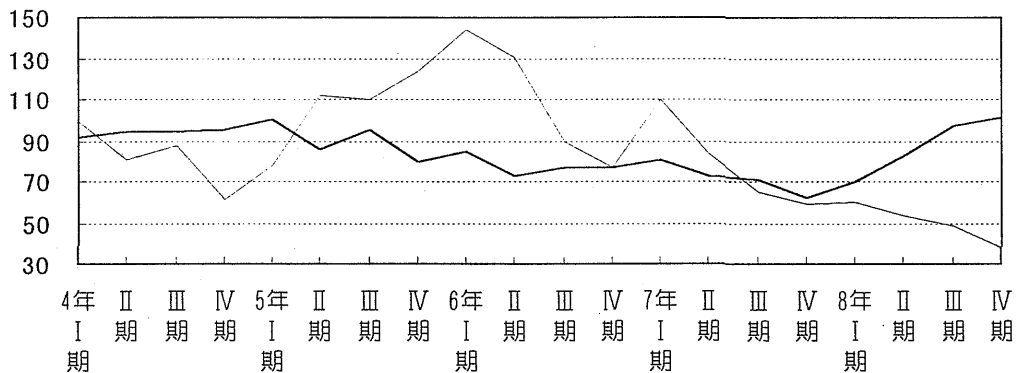


4-3 輸送機械工業

8年の県内輸送機械工業の生産指数は88.0で、対前年比22.7%増加した。これは乗用車が増加したためである。

四半期別にみると、1～3月期は70.0（対前期比12.3%増）、4～6月期は82.7（同18.2%増）、7～9月期は97.0（同17.3%増）、10～12月期は101.5（同4.7%増）と4期連続増加した。

一方、在庫指数の年平均は48.2で、対前年比△36.6%減少した。これを四半期別にみると、1～3月期は60.2（対前期比1.5%増）、4～6月期は53.8（同10.7%減）、7～9月期は48.1（同10.5%減）、10～12月期は37.5（同22.2%減）と3期連続減少した。

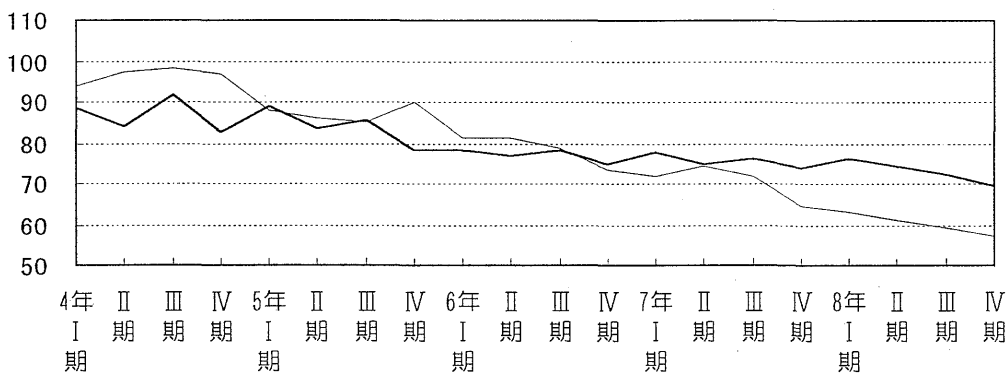


5 窯業・土石製品工業

8年の県内窯業・土石製品工業の生産指数は72.9で、対前年比△3.6%減少した。これは、遠心力コンクリート、安全ガラス等が減少したためである。

四半期別にみると、1～3月期は76.4（対前期比3.5%増）、4～6月期は74.4（同2.6%減）、7～9月期は72.2（同3.0%減）、10～12月期は69.7（同3.4%減）と3期連続減少した。

一方、在庫指数の年平均は60.3で、対前年比△14.7%減少した。四半期別にみると、1～3月期は63.0（対前期比2.4%減）、4～6月期は61.0（同3.2%減）、7～9月期は59.5（同2.5%減）、10～12月期は57.5（同3.4%減）と4期連続減少した。

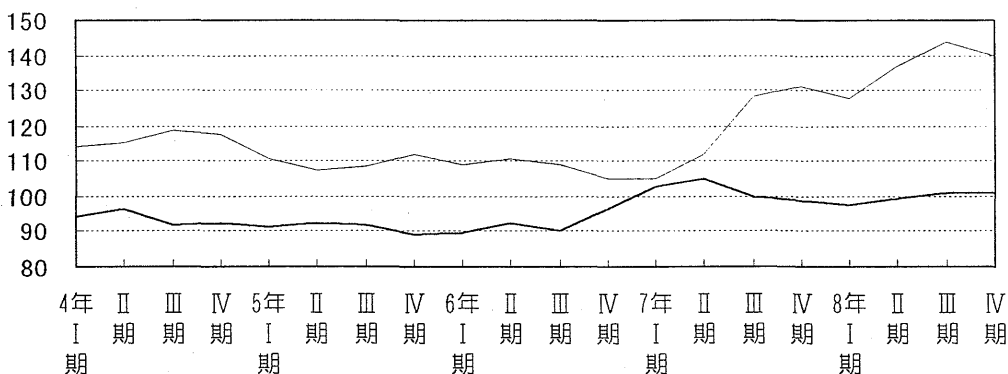


6 化学工業

8年の県内化学工業の生産指数は99.8で、対前年比△1.7%減少した。

四半期別にみると、1～3月期は97.7（対前期比1.3%減）、4～6月期は99.4（同1.7%増）、7～9月期は101.0（同1.6%増）、10～12月期は100.9（同0.0%減）となった。

一方、在庫指数の年平均は136.7で、対前年比15.0%増加した。これを四半期別にみると、1～3月期は127.6（対前期比3.0%減）、4～6月期は137.0（同7.4%増）、7～9月期は143.7（同4.9%増）、10～12月期は139.8（同2.7%減）と増減を繰り返した。

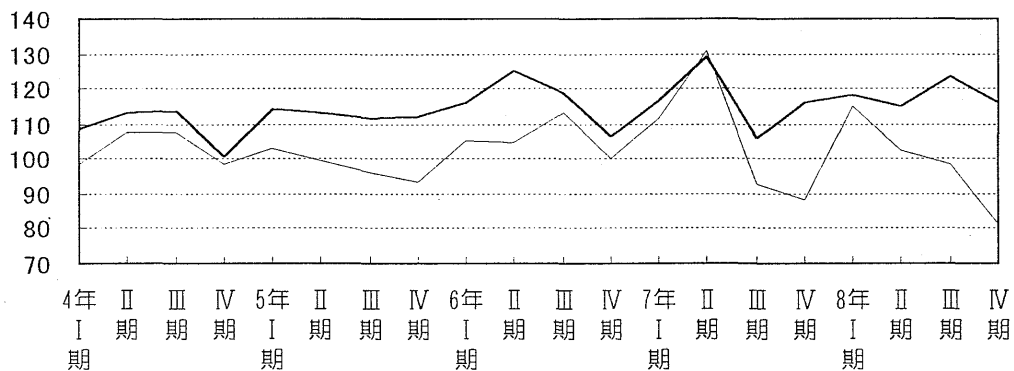


7 石油・石炭製品工業

8年の県内石油・石炭製品工業の生産指数は118.1で、対前年比1.5%増加した。これは、揮発油が増加したためである。

四半期別にみると、1～3月期は118.1（対前期比1.6%増）、4～6月期は115.0（同2.6%減）、7～9月期は123.3（同7.2%増）、10～12月期は115.9（同6.0%減）と増減を繰り返した。

一方、**在庫指数の年平均は97.2、対前年比△5.6%減少した。**これを四半期別にみると、1～3月期は115.2（対前期比30.6%増）、4～6月期は102.4（同11.2%減）、7～9月期は98.6（同3.7%減）、10～12月期は81.1（同17.7%減）と3期連続減少した。

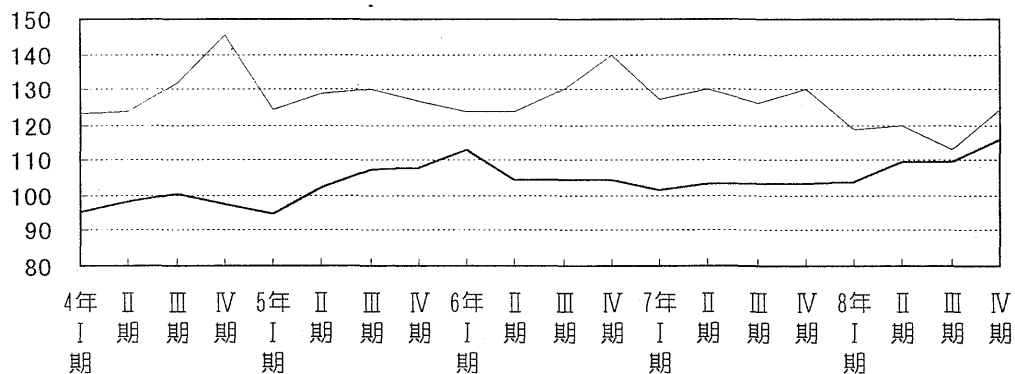


8 プラスチック製品工業

8年の県内プラスチック製品工業の生産指数は110.0で、対前年比6.9%増加した。これは機械器具部品、フィルムシート等が増加したためである。

四半期別にみると、1～3月期は103.9（対前期比0.3%増）、4～6月期は109.7（同5.5%増）、7～9月期は109.8（同0.1%増）、10～12月期は115.9（同5.5%増）と4期連続増加した。

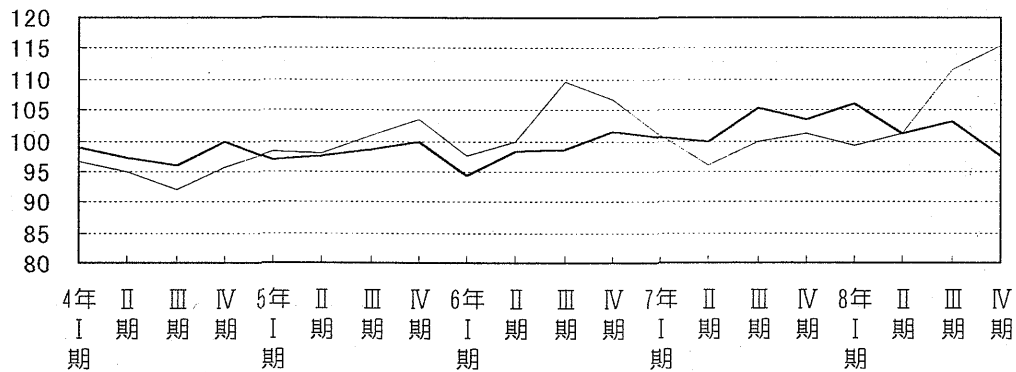
一方、**在庫指数の年平均は118.9で、対前年比△7.3%減少した。**これを四半期別にみると、1～3月期は118.7（対前期比8.9%減）、4～6月期は119.6（同0.8%増）、7～9月期は113.1（同5.4%減）、10～12月期は124.4（同10.0%増）と増減を繰り返した。



9 パルプ・紙・紙加工品工業

8年の県内パルプ・紙・紙加工品工業の生産指数は101.9で、対前年比△0.4%減少した。四半期別にみると、1～3月期は106.1（対前期比2.5%増）、4～6月期は101.2（同4.6%減）、7～9月期は103.1（同1.9%増）、10～12月期は97.5（同5.5%減）と増減を繰り返した。

一方、在庫指数の年平均は106.6で、対前年比7.3%増加した。これを四半期別にみると、1～3月期は99.1（対前期比2.2%減）、4～6月期は101.2（同2.1%増）、7～9月期は111.7（同10.4%増）、10～12月期は115.5（同3.4%増）と3期連続増加した。

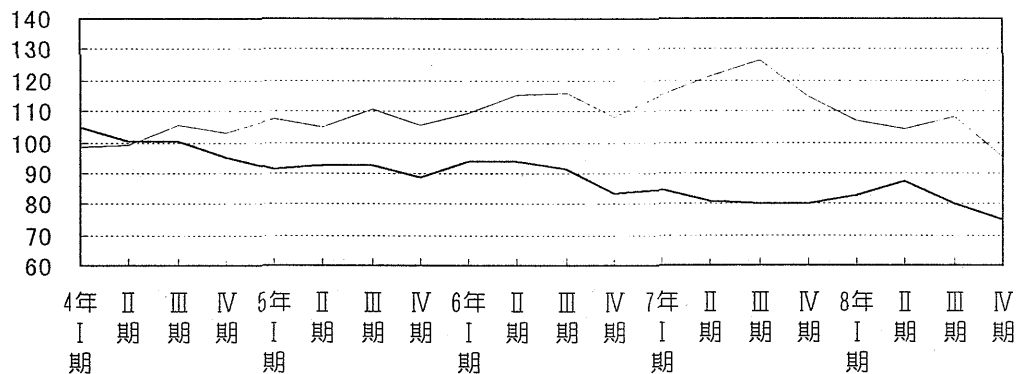


10 繊維工業

8年の県内繊維工業の生産指数は79.0で、対前年比△2.8%減少した。これは、織物製外衣等が減少したためである。

四半期別にみると、1～3月期は82.7（対前期比3.4%増）、4～6月期は78.4（同5.2%減）、7～9月期は80.2（同2.3%増）、10～12月期は75.2（同6.2%減）と増減を繰り返した。

一方、在庫指数の年平均は103.7で、対前年比△12.8%減少した。これを四半期別にみると、1～3月期は107.1（対前期比6.7%減）、4～6月期は104.5（同2.4%減）、7～9月期は108.3（同3.6%増）、10～12月期は95.3（同12.0%減）となった。



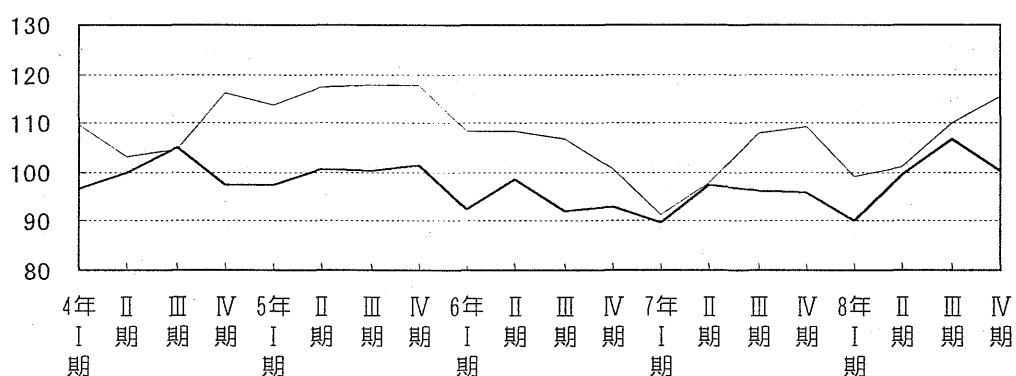
1.1 食料品工業

8年の県内食料品工業の生産指数は99.1で、対前年比4.6%増加した。これはコーヒー、味りん等が増加したからである。

四半期別にみると、1～3月期は90.0（対前期比6.1%減）、4～6月期は99.5（同10.6%増）、7～9月期は106.8（同7.3%増）、10～12月期は100.5（同5.9%減）となった。

一方、**在庫指数の年平均は106.3で、対前年比4.8%増加した。**

これを四半期別にみると、1～3月期は99.1（対前期比9.1%減）、4～6月期は101.2（同2.2%増）、7～9月期は110.0（同8.7%増）、10月～12月期は115.4（同4.9%増）と3期連続増加した。

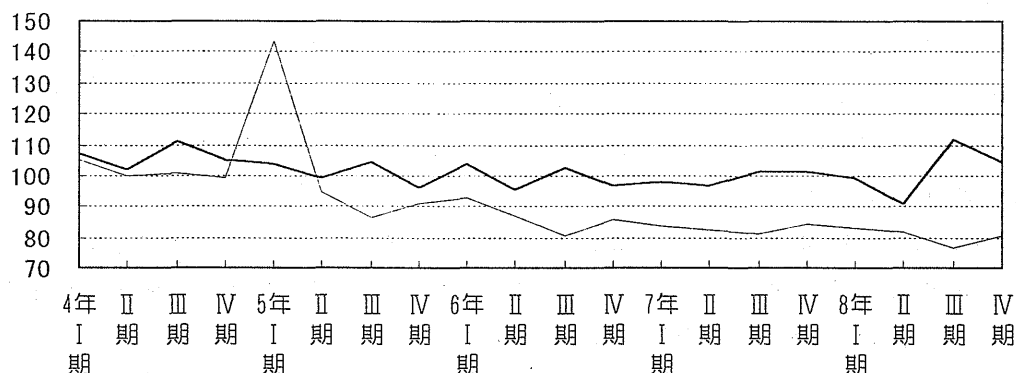


1.2 その他工業

8年の県内その他工業の生産指数は101.2で、対前年比2.0%増加した。各業種の対前年比をみると、ゴム製品工業1.2%の増、家具工業△4.6%の減、木材・木製品工業△5.7%の減、その他製品工業15.2%の増であった。

四半期別にみると、1～3月期は99.4（対前期比1.6%減）、4～6月期は90.7（同8.7%減）、7～9月期は111.4（同22.8%増）、10～12月期は104.4（同6.3%減）となった。

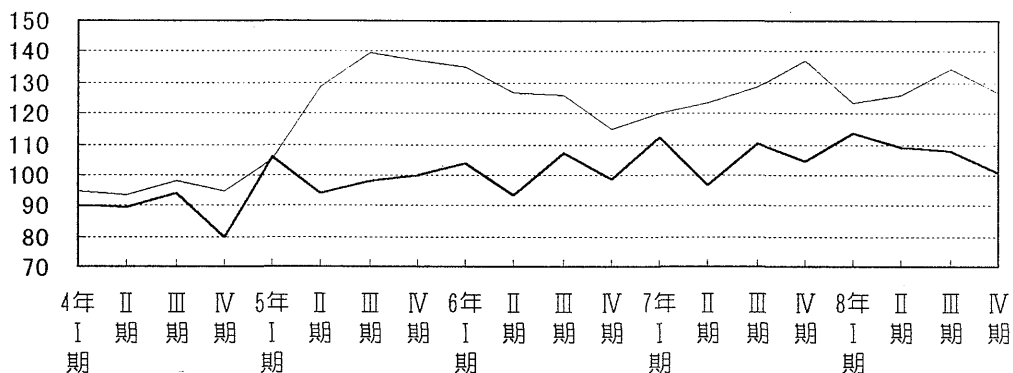
一方、**在庫指数の年平均は80.3で、対前年比△3.0%減少した。**各業種の対前年比をみると、ゴム製品工業△0.5%の減、家具工業27.2%の増、木材・木製品工業△5.6%の減であった。これを四半期別にみると、1～3月期は83.0（対前期比1.6%減）、4～6月期は81.8（同1.4%減）、7～9月期は76.4（同6.6%減）、10～12月期は80.1（同4.8%増）と3期連続減少したのち増加した。



13 鋳 業

8年の県内鋳業の生産指数は107.4で、対前年比2.0%増加した。四半期別にみると、1～3月期は113.8（対前期比9.1%増）、4～6月期は108.7（同4.5%減）、7～9月期は107.4（同1.2%減）、10～12月期は100.7（同6.3%減）と3期連続減少した。

一方、在庫指数の年平均は127.6で、対前年比0.1%増加した。これを四半期別にみると、1～3月期は123.6（対前期比9.7%減）、4～6月期は126.0（同1.9%増）、7～9月期は134.2（同6.5%増）、10～12月期は126.4（同5.9%減）となった。



14 公益事業（参考）

8年の県内公益事業の生産指数は113.4で、対前年比11.7%増加した。

四半期別にみると、1～3月期は121.4（対前期比26.0%増）、4～6月期は101.6（同16.3%減）、7～9月期は104.6（同2.9%増）、10～12月期は125.4（同20.6%増）となった。



「指数」とは？

指数をあえて一言でいうのなら、おなじ種類の統計数値の大きさを、比率（百分比）にして表したものの、という事になります。その比較する時に、比較のもととなる「基準」を設けて、その基準を「100」として指数をあらわします。

それでは、なぜ「指数」を作る必要があるのでしょうか？

異なる時点、場所の数値を比較する時に、単純に実数値だけを比べるだけでは「動き」までを見る事ができません。たとえば、Aという工場とBという工場があり、ともに去年にくらべて100トン生産が伸びたとしましょう。これだけをみれば同じ100トンの伸びですが、前年の生産を基準としてみた時に、前年はA工場は50トン、B工場は1000トンの生産だったとしたら、どうでしょうか？

A工場は3倍の伸びになりましたが、B工場は1割の伸びにとどまっていることがわかります。

このように、異なる時点、場所の比較を行なうために、また異なった単位の統計数値を比較するには、指数はとても便利な指標であるといえます。